

第2回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和3年2月26日（金） 午後3時から午後4時47分
- 2 開催場所 胎内市産業文化会館 会議室
- 3 議 題 (1) 前回の質問事項について報告
(2) 意見交換（グループ協議）
テーマ「適正規模等を考える際に重要だと思われることについて」
- 4 公開・非公開の区分 公開
- 5 出席者 委 員 長 桐生 和文
副委員長 小野 正敏(3グループ)
委 員 橋本 定男
委 員 宮 蘭 衛
委 員 須貝 欽也(1グループ)
委 員 河内 理助(3グループ)
委 員 小林 勲(2グループ)
委 員 渡邊 俊一(3グループ)
委 員 久世 俊介(2グループ)
委 員 近 真由美(1グループ)
委 員 渡邊 英実(2グループ)
委 員 花野 真也(1グループ)
委 員 花野 純恵(3グループ)
委 員 岡松 綾(2グループ)
委 員 中村 祐一(1グループ)
委 員 齋藤 重雄(2グループ)

教育長 中澤 毅
学校教育課長 佐久間伸一
管理指導主事 松原 利弘
指導主事 池田 裕之
指導主事 槇田 博之
庶務係長 須貝 彰

庶務係主事 三宅 亨

意見交換(グループ協議)進行役

NPO法人みらいずworks 小見 まいこ

NPO法人みらいずworks 瀬倉 隆博

NPO法人みらいずworks 安達 早那

6 会議資料 なし

7 傍聴人の数 3人

8 会議の概要(要旨)

(1) 開会

○ 議長

ただ今から、「第2回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会」を開催します。

本日は出席者が全委員の過半数を超えておりますので、委員会条例第6条第2項の規定により会議は成立します。

会議に入ります前に、前回ご都合により欠席の宮園委員、久世委員をご紹介します。宮園委員、久世委員の順に自己紹介をよろしくお願いいたします。

<宮園委員：自己紹介>

<久世委員：自己紹介>

○ 議長

ありがとうございました。なお本日は、野尻委員と佐藤委員から欠席の連絡を頂いております。

それではお手元の次第に沿って進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

次第の2、前回の質問事項について、2点報告をお願いします。

(2) 前回の質問事項について報告

○ 学校教育課長

それでは前回は質問を頂きました2点について、ご報告させていただきます。

1点目についてですが、スクリーンをご覧ください。市外の中学校へ進学する就学者数の推移と、部活動を理由として学区外就学をしている人数の推移について質問がございました。市外中学校への就学者数の推移ですが、市外の就学先としては、ご覧のように村上中等教育学校、そして私立の中学校、こちらは新潟市内への進学になりますが、平成28年度からの進学者数の推移はお示しのとおりです。

令和2年度の欄をご覧ください。前回のご質問の際には概ね10人とお答えしたところですが、令和2年度は10人を超える方が市外への中学校へと進学しています。令和元年度は8人、それ以前の人数はご覧のとおりです。

次に部活動を理由とした学区外就学者数の推移です。前回のご質問の際は、私4人から8人とお答えしたところですが、令和2年度は、中条中学校へ、バスケットボールで2名、柔道で2名、バレーボールで3名、ソフトテニスで1名、合わせて8名が学区外から就学しています。乙中学校・築地中学校・黒川中学校への部活動を理由とした学区外就学はございませんでした。令和元年度は合わせて6名、それ以前の人数はご覧のとおりです。

続きまして2点目の中学校の部活動の現状と取組のご質問については、パワーポイントを用いまして、担当指導主事から説明します。

○ 指導主事

それでは、中学校部活動の現状と取組について説明します。

中学校部活動の現状としては、中学校部活動が現在、大きな転換期を迎えているということが挙げられます。

長らく中学校の部活動は、学校教員が中心となり支えてきましたが、昨年9月に、令和5年度以降、休日の部活動を段階的に地域移行する方針が文部科学省から示されました。これは長時間の超過勤務が問題となっている学校の働き方改革の一環として、国の中央教育審議会が平成31年1月、部活動を「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」と整理したことなどによるものです。さらにこうした転換の背景には、「少子化の進展」、「ニーズの多様化」が挙げられます。

少子化については、ご存知のとおり、市内中学校の生徒数は10年前の平成22年度は847人だったものが、現在は641人に減少し、10年後の令和12年度は545人に減少することが見込まれています。これに伴い、学校規模、職員数も減少しています。

また、ニーズの多様化も進んでいます。中学生がサッカー、ボルダリング、ダンス、バレエ、ピアノなど様々なスポーツや文化活動に取り組むようになり、野球のシニアチーム、バスケットボールのクラブチームなど学校外の活動の

場も広がったりしてきています。そのため、規模の一番大きな中条中学校でさえ、野球部の新人チームは、1，2年生合わせても9人に満たず単独でチームが組めないといった現状が起こってきています。

こうしたことから、先ほど申しあげました平成31年1月の中央教育審議会答申では、部活動について、こうした現状の解決を図るために「教師が授業の質の向上に取り組めないほどの負担を強いられることはあってはならない」ことや、「将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取組にし、学校以外が担うことも積極的に進めるべき」ということが述べられています。

これを受け、胎内市では部活動の在り方の検討を進めてまいりました。

具体的には、昨年2月に有識者、スポーツ団体関係者、学校職員、保護者からなる「胎内市立中学校の部活動の在り方検討委員会」を設置し、「これからの部活動に関する意識調査」などをもとに論点整理を行い、県内外の先進事例などを参考に検討を進めていただきました。

その結果、「部活動は中学生にとって、社会性を育み、目標に向かって努力する大切さを体得する貴重な機会」という共通認識のもと、「地域、保護者、学校、行政が連携して、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる体制を整える取組を進めていく必要がある」という提言をいただきました。

この提言を受けて、現在、部活動の受け皿としての地域部活動の体制づくりに向けて、次のような取組を進めています。

1つ目は、地域人材の活用です。地域の指導者の方から、部活動指導員として部活動を支援していただいています。

2つ目は、胎内市中学生のスポーツ・文化活動ガイドラインです。これは、学校の部活動だけでなく、保護者会の活動、地域での活動など、共通の活動方針として策定しました。例えば、国や県のガイドラインで示されている活動時間や休養日の基準を守れるように、保護者会や地域で活動したときには学校の部活動を休みにするなど連携を取り合って、中学生にとって無理のないバランスのとれた活動を展開していく指針としていきたいと考えています。

3つ目は、胎内市中学生スポーツ・文化教室の設置です。胎内市のスポーツ協会加盟の各競技別連盟など地域のスポーツ・文化団体と連携して、令和3年度から協力を得られる連盟の種目について、週末月2回程度の活動を行うところから始められればということで、現在取組を進めています。例えば、先ほど例に挙げた1校ではチームの組めない野球などでは、週末に地域で合同練習を行い、日頃できないチーム練習を行うなどの活動ができればと野球連盟など地域の関係の皆様と体制づくりを進めているところです。

以上、学校から地域へという大きな流れの中で、中学生のスポーツ・文化活動を地域、保護者、学校、行政で連携して支えていけるよう取組を進めているとこ

ろです。

○ 議 長

ありがとうございました。

前回の質問の中で、具体的に回答ができなかった市外中学校への就学者数、部活動を理由として市内の学校への学区外就学者数の推移、そして部活動について、胎内市の今の在り方、今後の方向等を報告いただきました。

(3) 意見交換(グループ協議)

○ 議 長

それでは次第の3、意見交換を行います。

前回は、特に現在の小規模中学校3校について、大勢の生徒の人間関係の中で切磋琢磨していく環境ではなく、また多くの中学生にとって、より良い成長のための貴重な機会である部活動において、その存続が難しいこと、また、小規模校の課題解決に向けた一つの方策として考えられる小中一貫校の説明など、この検討委員会で話し合いの参考となる内容が示されました。

そして、情報交換の中では、今後の部活動の在り方を考えたときに、部活動そのものを大きな基準として学校の適正規模を考えていくのはどうかということや、教員数の確保、また一学年の学級数、一学級の人数、地域に学校が存在することの意義、通学条件などの意見が出されたわけですが、まだまだ議論が深まるまでの時間ありませんでした。

第1回会議を踏まえ、今回も引き続き、できるだけたくさんの論点事項を洗い出し、全委員で共有する機会にしたいと考えています。そのため今回の意見交換は、委員全員が意見を出し合い、意見交流ができるようグループ協議の形式とさせていただきます。したがって、今回は論点を精査するのではなく、自由に論点を出し合い、出された論点をもとに、次回以降の会議で具体的な検討へと結びつけ、整理していくという位置づけにしたいと考えています。

なお、ここからのグループ協議の進行は「みらいずworks」さんになりますが、テーマは「適正規模等を考える際に重要だと思われることについて」とし、学識経験者を除き、ほかの地区の方々と意見交流ができるよう地区混合のグループ編成としています。学識経験者の橋本委員、宮菌委員からは最後にグループ協議を踏まえ、ご意見をいただきたいと考えています。それでは「みらいずworks」さんよろしく申し上げます。

○みらいずworks 進行役

今ほどご紹介いただきました「みらいず works」の小見と申します。

今日はよろしくお願ひします。このあと各グループで進行させていただきますが、自己紹介だけさせていただきます。

〈1 グループ進行 小見まいこ：自己紹介〉

〈2 グループ進行 瀬倉 隆博：自己紹介〉

〈3 グループ進行 安達 早那：自己紹介〉

胎内市には以前キャリア教育の推進というところと、築地小中学校区のコミュニティ・スクールの立ち上げのお手伝いなどさせていただきまして、今日久しぶりにお邪魔できてとてもうれしいです。皆さんとはいろんな論点というか、こういう視点でも考えていくことが大事だよねとか、ここはご自身としてぜひ考慮していただきたいとか、いろんなお声を頂く機会にさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

本日の流れですが、これからオリエンテーションということで本日の進行流れを説明します。そのあとグループ討議1回目20分弱しまして、そのあと全体共有ということで、他のグループではどんな話し合いがされているのかというのを見合ひまして、それを踏まえてまたグループ討議2回目を行います。

最後に発表、今日気付いたこと感想などをグループ内で共有して終わりという流れです。だいたい70分ほどを予定しています。

今日のルールとして、いろいろな立場の方々がいらっしゃっておりますので、もちろんご自身と全く違う考えの方もいらっしゃいます。いろいろな考えをぜひ聞いて受け止めていただきたい。自分と違う考えを否定せずに、そういう考えもあるのだなということで自分の考えの幅を広げる機会にさせていただきたいと思っております。否定されないということで、皆さん安心して遠慮なくお話しいただきたいと考えています。また、話し過ぎない、聞き過ぎない、いつもちょっと話し過ぎてしまうという人は、今日は1割ぐらい抑えていただいて、いつもは聞きっぱなしになったり黙ってしまう傾向があるという人は、積極的にいつもより1割増しにお話しいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

では、アイスブレイクということで、お隣の方とエピソードを交換し合うというワークをやってみたいと思います。「みらいず works」では、good and new と言っていますが、良かったこと、若しくは新たな気付きというのを共有していただきたいと思っております。エピソードなどを隣の方と共有してみてください。それでは1分くらいでお願いしたいと思っております。

<お隣同士で good and new の共有>

<チャイム音>

○みらいずworks 進行役

時間になりました。ありがとうございます。短い時間でしたがご協力ありがとうございます。

今日はチャイムが鳴ったらおしまいのお合図ということで私の方にご注目ください。今度はグループで自己紹介をして本題に入ってもらいます。自己紹介するときに、各学校区の方がグループに入っておりますので、短めに地域自慢をしてから自己紹介してお話をしてほしいと思います。

本日のテーマが「適正規模等を考える際に重要だと思われることについて」ということで、今後の論点とか観点を出していくという感じで、ざっくりばらんにお話していただいた内容を「みらいず works」のメンバーがホワイトボードに書いてまいりたいと思います。

それでは自己紹介を含めて20分です。始めてください。

<グループごとに、自己紹介から協議事項について話し合い>

<チャイム音>

○みらいずworks 進行役

皆さん20分経ちましたが、いかがでしょうか。次に、ほかのグループのところへ覗き見しに行きたいと思います。うちのグループでは出てない観点とか、こういう視点もあるなというヒントを得に行きたいと思います。

3分経ったら戻ってきていただいて、また2回目を始めたいと考えています。よろしいでしょうか。ではお願いします。

<ほかのグループのホワイトボード拝見>

<チャイム音>

○みらいずworks 進行役

それではご自分のグループに戻ってください。

では後半です。20分と思っておりましたが、少し時間を短くさせていただいて18分とします。ほかのグループを見てきたものを参考に、これよかったというのを共有しつつ、グループの中でいろいろな論点出しを引き続き進めてください。お願いします。

<グループ協議 2 回目>

<チャイム音>

○みらいずworks 進行役

お疲れ様でした。皆さんあっという間に時間が経ちましたが、まだまだ話したいところでしょうか。各グループでこんな話がありましたというのを「みらいず works」の各メンバーから簡潔に紹介させていただいて、全体共有とさせていただきます。

それでは私の方から、まず1グループの発表をさせていただきます。

○1グループ みらいず works 進行役

地域にとっての避難所機能というのが学校にはある。歩いていけないとお年寄りも多くなってきて困るというのがある。関連するかもしれないが、統合後どこに学校を置くのかということも問題になってくる。ただ子どもたちにとってはバスで通うのは乙や黒川中学校区では当たり前になってきている。しかしその分体力の格差が出てきているのではないか。子どもたちに競争心がない。いつも同じ役割が固定化し、それが嫌だから引越しをするというご家庭もあるということ。ただ教育に関しては、小規模でもみんながいろいろな役割を担っているところもあるし、大規模でも新しいことをしたいと思わない子も増えてきている。教育の質というか、大規模でも小規模であっても、チャレンジをさせるということが大事。中条小学校はすごく学力が高いということでしたが、今から新潟市や新発田市に目を向けて、中学校はそちらに行くという子もちょっとずつ増えているということ。小中学校が小規模だったため、切磋琢磨させたいということで高校は大規模のところに行かせたいというご家庭も多いということ。30年、50年先のことも考えるべきでないかということで、子どもたち、若者たちの意見も大事にしていきたい。生産人口がどんどん減ってきているということも不安という話もありました。部活動に関しては、いろいろな問題があると思いますが、中条中学校は人数が多くても部活動が希望制ということで、野球部が成立しないということがありましたし、乙中学校は全員部活動に入らなければならないので、少なくとも野球部が試合に出られるということです。結果的に3中学校でチームをつくるのが理想ですが、中体連に出られないということで、中体連に出ないと全国も目指せないということで、子どものモチベーションが上がらない。中体連にも変わってもらわないといけないという話も出ました。

○2 グループ みらいず works 進行役

こちらのグループで出たものを紹介します。学校は勉強だけでなく、社会的自立ということも大事ということで、社会性というキーワードが出ました。人間関係をつくる。これは少人数だとメリットもあるしデメリットもある。部活に関して、先ほど中体連の話があったが、もっと広い視野で変えていかないといけないのでは、胎内市として競技を絞るというのも有りなのではないかという意見も出てきました。部活は校外の人との出会いもあるし、競争性も育まれるので大事ではないか。通学について、昔は冬でも自転車で通っていた、体力づくりにつながる、女の子だと心配だとの話が出てきました。キャリア教育、今地域と繋がっているが統合したら密度が薄くなる。学校と地域が離れる。小学校と中学校が同じ建物になると、中学生が小学生の面倒をみるというメリットもあるのでないか。高1ギャップのワードが出てきたが、いろいろな人がいて面白いというのも事例でありました。

このグループでは人間関係や社会性、競争性というものが大事ということになりました。

○3 グループ みらいず works 進行役

私たちのグループでは、地域の方々の目線として、地域から学校がなくなるのは日常的な子どもとの関わりがなくなるのでさみしい。学校がない地域に子どもが積極的に足を運べるような仕組みをつくった方がいいのではという意見が出ました。通学に関して、学校から遠い所に住んでいる子どもたちの登下校の時間が大変になってしまう。教員の数に関しては、先生同士で切磋琢磨してほしいので、学校を統合しても教員の数は減らさないで欲しい。高1ギャップというものもあるが、保護者の目線として中学校ぐらいの段階から人数の多い環境に慣れさせておくのも大事なのかなという話が出ていました。子どもの目線では、大きい学校だと友達がたくさんつくれるのがいい。ずっと同じ人といると退屈という意見もありました。問題として、クラスが少ないとクラス内で何か生徒間や生徒教師の間でトラブルがあったときに、クラス分けができないので対処がしきれないということもあるので、ある程度、2クラス以上のクラス、人数を確保しておくのは大事なのかなという話がありました。

地域の方々の目線として、統合してしまうと日常的な子どもと地域の人との関わりが無くなってしまうので、コミュニティ・スクールをつくって、日常的に関わる仕組みをつくるということと、統合することによって、他の地域間での交流が活発になるのではないかと、例えば地域内のお祭りでもその地域の子もだけが参加するのではなく、いろんな地域の子もがその地域のお祭りに参

加するといった感じで、統合によって他の地域との交流が活発になるといういい面も出てくるのではないかという話がありました。

○みらいずworks 進行役

本日はいろんな論点、意見を出すということだったので、以上にしたいと思います。ぜひこれをベースに議論を深めていただければと思います。

今日の気づき、感想を共有したかったのですが、ちょうど事務局にお返りする時間になってしまったので、すみませんが割愛させていただきたいと思いません。今日はどうもありがとうございました。

○ 議 長

「みらいずworks」さん、ありがとうございました。

本当はもう少し時間があればまだまだ考えておられるところもお話しいただけたのかもしれませんが、時間の関係で申し訳ありません。ありがとうございました。

ここで学識経験者の橋本委員と宮菌委員から、グループ協議を踏まえて、ご意見を伺いたいと思います。

橋本委員お願いします。

○ 学識経験者（橋本委員）

皆さんの参加を促していく本日の進め方はとても良かったと思います。

論点としては出たと思われます。これを詰めていけばいいと思います。

なんといっても教育の充実が一番大事で、教育が格差なく公平で充実していくことを目指すうえで、何としても大事になってくるのは、子どもの数と教職員の数です。子どもの数と学級の数を、どの辺までの数をギリギリ何とかしたいという、それは先生の数をギリギリこれくらい確保したいという問題に収斂するわけです。今後は、切磋琢磨して社会性を身に付けて人間関係をつくるのに必要な人数、そして、きめ細かく指導するという、その辺を考えながら、学級の数をどのくらいか、子どもの数を一クラス何人くらいまでにするという、難しい問題にだんだん入っていかなければいけないと思いました。もう一つ、公平を考えれば場所の問題もあります。私佐渡で校長をしたことがありまして、学校が無くなるということは大変なことでした。命がけで守る、そんなイメージがありましたので、第1回目の会議のときお聞きし、今日もそのあたり注目していましたが、私の印象では、佐渡で私を感じたような、死んでも学校は無くさないという、そういう時代はもう子どもの数からしても、ある意味皆さんそこは乗り越えていて、あるいは、小学校ではもう既にバスで通っているの、通学のことさえしっかり

と配慮するという条件にすれば、統合に向かうということについての高いハードルは今のところあまり感じていません。もしそうでないという方がいましたら、次回ぜひお願いします。

そして仮に統合したとしても、それは30年、40年の先を考えながらの統合になります。そうすると部活動はもうかなり形が違います。そういう先のことを考えたときに、仮に統合となった場合、こういうことを配慮して欲しい、ここだけは絶対に大事にして欲しい、そのようなことをこの検討委員会で出すのかなと思いました。例えば今より遠いところに学校ができるわけですから、学校と地域が離れてしまう、学校と地域をつなぐようなことが大事だという意見が出ていました。あるいは切磋琢磨が足りないのであれば、学校同士で文化祭を一緒にするとか、競技会を盛んにするとか、胎内市なりの様々な工夫がいっぱい考えられます。私はそれを「胎内モデル」として、皆さんと一緒に、生徒数、先生の数を考えていく中で、適正規模が見えてくるのではないかと思います。統合の形がだんだん見えてきて、もし統合した場合は、通学、教育内容や社会性育成のため等々、あるいは地域との連携の工夫を、委員の皆さんと出し合っていくようになるのかな、先が見えたと思いました。

おまけですが、1回目でも出ましたが、子どもの声を聞こう、ぜひこれ実現してもらいたいと思います。聞きたいです、子どもの声。たぶんいっぱい部活動のことが出てくるだろうと思います、部活動の将来を彼らは知らないのです。でもそれでいいです。部活への思い、競技会への思い、友達への思い、いろいろな思いが出てきて、自分たちが大人になったとき、学校がどうなっているだろうと考えながら、ふるさと胎内市にずっといたいと思われるように、アンケートはどうしてもいると思います。

そして、さきほど個別にお願いしましたが、データがもう少し欲しいです。中学校の先生方は免許を持っています。教える教科の免許を持って先生方がちゃんといえるのかどうか。一番いいのは、1教科に複数の免許のある先生がいるということです。数学の先生が3人いるという感じです。人数が減っていくと、1人の先生が全学年の数学を持つようになるわけです。その辺の実態を次回に調べてもらえればありがたいと思いました。

だんだん先が見えてきて、私たちの仕事は、思いのたけをみんな並べて、きちんと整理して、判断は教育委員会にお願いするということになると思いました。以上です。

○ 議長

ありがとうございました。それでは続いて宮菌委員からよろしくをお願いします。

○ 学識経験者（宮菌委員）

今回初めて出席しましたが、こういうワークショップ的な形で、すべての委員の皆さんが自分の思いとか考えを共有するということから始めていくというのは、とてもいい取組だと思いました。

今日のテーマですが、橋本委員からも話がありましたが、今、目の前のこととということだけでなく、これから20年、30年先を見据えたときに胎内市の教育をどうしたいのかという、子どもたちの教育環境をどう守っていこうとするのか、あるいは整えていこうとするのか、そういう課題をここで考えているのかなというふうに思いました。

今日いろいろな意見が出ました。統合という一つの論点に絞ってということもあったと思いますが、メリットとかデメリットが出てきていました。いろいろな方法、例えば統合といってもいろいろなやり方とか、方法が考えられると思いますが、それぞれデメリットというのが出てきた場合、それをどうやって補っていくのか、あるいはそこをどう工夫を凝らしていけばそれがより良いものになっていくのか、そんなことを考えて、アイデアも少し出てきているのかなというふうに思いました。

今、橋本委員からは公平性という話がありましたが、私のほうは、今日の議論の中でも出てきた話、例えば、子どもの数が少なくなって、それをそのままの環境で子どもたちが学ぶことがいいのか、それとも統合してもう少し増やしていった方がいいのか、そのようなときに、そこにキーワード多様性というのが一つあったかなと思います。

固定化という言葉、人間関係の固定化とかがありました。それに対して、やはり競争的な、いろいろな人と関わっていくことによって自分自身の社会性をどう身に付けていくか、そういう意味での多様性ということがそこにあったのかなと思います。そうすると多様性をどう保障するかということで、既にいくつかアイデアが出ていたと思いますが、もちろん個人的な関係の中での多様性というものもあるでしょうけども、胎内市の学校同士が交流してとか、学校間の交流を通して子どもたちが学んでいくという、そういう形での多様性を保障していくというようなこと。それはひょっとすると小規模の学校での、そこでのまた多様な学びが生まれてくる、そういうことを言っているのかなと思いました。体育祭を学校間でやってもいいのではないかとか、そういうのもありました。もう少し進めていくと、今、小中学校の義務教育とまた違いますが、大学ではオンライン授業が当たり前になっています。授業で中国の大学とつないで、そこで交流したり、あるいは中国の授業をライブで見て、そして授業、検討をやったり、そういう形でのつながり方というのも出てきています。胎内市の子どもたちも、これからの日本社会の教育環境の整備を考えていくと、どこともつながっていけるよ

うな、そういうのを考えていけば、いろいろな可能性が考えられるかもしれませんが。統合というのも、もちろん一つの方策であると思いますが、そうでない場合もいろいろな可能性があるということです。そのように知恵を出し合っていくということがとても大事なことだと思いましたし、そういう場が今日の検討委員会かなと感じました。

もう一つ、例えば部活動を地域に渡していく、教員の働き方改革の中、そういうことにも関わってきます。日常の授業というところにエネルギーを注いでいくということを考えていったときに、先生方の負担を軽減していくということもあるし、子どもたちは地域の中で学んでいく、今社会に開かれた教育課程ということがよく言われていますが、学校と社会が本当に連携することによって子どもたちを育てていくという方向になってきています。例えば本当に少人数でいいのか、胎内市として考えていくということもあると思いますが、そういう状況の中で、どんな教育を目指していけばいいのかということにも少し考えていけたらいいのかなと、ここは委員会の任務ではないのかもしれませんが、そういう夢があってもいいのかなというふうに思いました。

○ 議 長

ありがとうございました。

お話を聞いていて、すごく根底は共通するところがあるというふうに思いました。統合が先にあるのではなく、いろいろな配慮、工夫の中で、今ある現状を見つめることも大切なのではないかというふうに聞いていました。統合も一つの方策ではあるわけですが、統合ありきで進めるのではなく、小規模校でもいいところはあるし、でも規模として最低限譲れないところはあるだろうと思います。それは子どもたちの育ちの中、いろいろな交流とか、いろいろな配慮の中でクリアできる部分もあるだろうと感じたわけですが、検討委員会としては、いろいろな提言をしていくことになりますが、その先は教育委員会に考えて頂ければよろしいわけですので、私たちはどういうふうな教育、規模、子どもたちにとっての環境、そのようなことを論点整理しながら検討してまいりたいというふうに思っています。

まだまだ時間があればというところですが、「みらいずworks」さん、また橋本委員、宮菌委員ありがとうございました。

先ほど橋本委員の意見の中で、データが一つ欲しいというのがありました。ほかの委員の方から次回にはこのデータも欲しいというものがもしありましたら、出していただければと思います。

(発言なし)

よろしいでしょうか。それでは、時間もまもなく予定した時刻になりますが、その他に入らせていただきます。

事務局から何かございますか。

(4) その他

○ 学校教育課長

それでは、事務局から次回の会議の開催についてご連絡させていただきたいと思います。

今回は4月に入りましたら予定をさせていただきたいと思います。

本日の会議を踏まえまして、協議内容等、そして日時については後日お示しさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

私からは以上です。

○ 議長

ほかよろしいでしょうか。

(発言なし)

それではほかにないようであれば、閉会のあいさつを小野副委員長からお願いします。よろしくをお願いします。

○ 副委員長

お忙しい中、長時間にわたりまして、本日は協議いただきました。ありがとうございました。

雪もいよいよ解けてきたなという感じがする今日この頃ですけど、この話し合いで、1回目の会議より打ち解けた雰囲気、すごくいい話し合いができたのではないかと考えています。

いろいろな話し合いをする中でやはり主役は子どもです。子どもたちが社会に出たときに胎内市を大きく自慢してくれるような子どもが育つ環境づくりを私たちは常に願っているわけですが、そうするためにはどうしたらいいのかということも一つの課題になるのかなというふうに考えています。

本日はグループ討議で協議をしていただいた中で、さきほど学識経験者の方からもお話がございましたが、次回以降の方向性を話し合う中で、ぜひ「胎内モデル」というすごくいいお言葉をいただきましたので、先進的なそのような形ができればというふうに考えています。今後とも皆様のご協力をいただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。本日はありがとうございました。

○ 議 長

これで今回の委員会を終了させていただきます。本当にありがとうございました。